

# マンガの表現技法

## — 『週刊少年ジャンプ』 黄金期連載作品の系統別比較

### からみるギャグマンガにおける漫符多用の要因—

本稿は、マンガに使用される特有の表現技法「漫符」に焦点を当て、「ギャグマンガはなぜ漫符を多用するのか」という問いを明らかにするべく調査を行った。調査対象は『週刊少年ジャンプ』（集英社：1968）における黄金期（1983年～1996年）連載作品計38作品の中から抽出した全ての漫符である。調査方法はExcelによる統計分析であり、上記対象範囲から抽出した計78,743個の漫符を統計データに反映して調査を行った。本稿が他の先行研究と異なる点として、漫符の数量に着目した点と抽出したデータ量の2点が挙げられる。

本稿は以下のように構成した。本稿は3章構成であり、第1章では、日本マンガ史を背景に起きながら、漫符の概要を説明した。第2章では、本調査の調査内容を詳述し調査結果を示した。くわえて、第2章では、本調査で明らかになったギャグマンガの漫符多用以外の発見なども示している。第3章では結論を述べている。本稿の問い「ギャグマンガはなぜ漫符を多用するのか」に対する答えを提示した。問いに対する主張は、本調査による結果と、ギャグマンガの性質に着目した筆者独自の考察の2点から言及した。

本稿の調査ではギャグマンガは、他ジャンルのマンガよりも多くの漫符を使用する傾向にあることが分かった。その原因はギャグマンガのコマ割りの多用と、マンガ表現におけるデフォルメが深く関係していた。本稿の調査結果と主張及び考察は他の漫符研究とは様相が異なり、漫符研究の幅を広げたと自負している。漫符はある種の視覚言語として、機能する側面を持つ。今後、漫符がマンガのみならず多くの分野で活躍することを期待している。